

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073300313		
法人名	株式会社 太平洋		
事業所名	グループホーム ファミリー	ユニット名	
所在地	宗像市平井1丁目19-1		
自己評価作成日	平成31年2月22日	評価結果市町村受理日	平成31年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	平成31年3月25日	評価確定日	平成31年4月1日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来、地域の一員として、確固たる地位を築くとともに地域行事の参加はますます盛んになっています。今年度も地域の要請により夏祭りのバザーにシュシュ・コースター・小物入れを出展させて頂き、大好評でした。地域の小学校・学童保育施設・保育園等と連携し、利用者と子供たちとの交流を図っています。裏庭の野菜作りも順調で、苗植え・水やり・草取り・収穫など入居者の方々に手伝って頂いています。また、収穫した野菜を食事メニューに取り入れる事は、食の楽しみの一つとして今後も継続していきたいと思えます。宗像市の花いっぱい運動に協賛して花壇やプランターに花苗を植えて、ご利用者様・近隣の皆様・ご家族に喜ばれています。現状に満足せず、常に職員全員で利用者の為になる事を考え実践していきます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宗像市平井にある“グループホーム ファミリー”は2階建てである。農業事務所(倉庫)をリフォームしたホームであり、頑丈な造りになっている。2階に上がる階段には座位式の昇降機があり、歩行が困難な方等が利用されている。長く入居されている方も多く、車いすを利用される方は主に1階で生活されている。午前中は2つのユニットのご利用者が1階に集まり、レクやリハビリをされたり、玄関前の花壇の花や野菜に水やりをされている。「カレーの日」も継続し、ご利用者も一緒に調理をされている。季節の飾りつけも大切にされており、正月は門松、春は雛飾り、夏はお祭り、秋はコスモス、冬はクリスマスツリーなど、季節を感じて頂いている。統括マネジャーと施設長(管理者)は職員個々の良いところを引き出すと共に、言葉遣いやケアへの姿勢等の指導を続けており、「自分の親を預けたいと思う施設づくりを目指してほしい」と職員に伝えている。今後もチームワークの在り方を検討すると共に、理念の振り返りを行う予定である。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝夕の申し送り時や毎月のミーティング時に、理念の共有に努めています。施設内に何ヶ所も張り出して常に見える様にしています。外部評価の自己評価表記入も役に立っています。	理念の中に「知識の習得と技術の研鑽」があり、ホーム内研修や外部研修に参加している。「地域社会とのきずなを大切にします」という理念もあり、平井区の夏祭りや敬老会、東郷小学校の学童保育の児童との交流も継続している。	29年度から新体制になっており、ファミリーの理念に基づいたケアの実践に努めてこられた。今後はあらためて、理念にある「心のふれあい」「心からのケア」の実践状況を職員全員で振り返りをしていく予定である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣近所の方々を夏のバーベキュー大会にお誘いしたり、9月の防災訓練の際は、避難されるご近所の方と声の掛けあいを行ったりしました。	町内会議に参加し、介護情報の発信をさせて頂いた。小学校や保育園に出かけ、子ども達との交流を楽しまれたり、地域の公民館で開催される盆踊りや地域の夏祭りに参加している。地域の方々に「認知症があっても、普通の人と変わらない生活ができる」ことを理解して頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加した際、介護相談に乗らせて頂いたり、施設見学を積極的に進めています。運営推進会議の内容等を地域選出の委員(町内会長)より報告して頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夏祭り・敬老会等、地域行事の予定等の連絡を早めに頂けるので、行事当日の職員増加等をすることで参加しやすくなっている。	会議の中でホームの取り組みを理解して頂いている。30年度は身体拘束等の適正化委員も同時開催し、「身体拘束の無い」生活状況を報告している。参加者から地域情報や地域住民の悩み等を教えて頂いており、ホームの介護知識を利用して頂くことをお伝えしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事やご指導を「地域密着ネットワーク」の会議の席上や、常日頃から市の窓口を尋ねたりしながら、連携を図って頂いています。	「地域密着ネットワークむなかた連絡会」に統括や管理者が出席している。市の職員や他事業所との意見交換を続けており、ホーム内の感染症対策も報告している。宗像市役所には毎月訪問し、ホームの取り組みや空き情報と共に、その都度の課題を相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化委員会を設置し、「身体拘束等の適正化の指針」を作成しました。	穏やかに過ごされている方が多い。畑仕事等をして頂き、居場所作りや役割作りに努めている。生活歴を把握し、その時々への想いに向き合うように努めている。今後も「スピーチロック」に関する勉強会を継続していく予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に、虐待防止の講習を受けた職員よりミーティング・申し送りの際に話をしてもらっている。言葉による虐待について職員全員でディスカッションをしました。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の講習に職員を参加させるとともに施設内に資料をおいていつでも見れるようにしている。後見人の面会時には情報提供を必ずいます。	ご利用者の後見人や市役所の保護課との話し合いを続けている。管理者等が制度利用の必要性を個別に検討し、統括(社会福祉士)からのアドバイスも受けている。ホーム内勉強会も行われている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を十分行うとともに法令改定時は書類説明を行い同意書を頂いている。ご家族の不明な点や疑問点については払拭できるよう説明している。その後については、常時電話連絡でもお答えしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しています。ご意見、ご要望の聞き取りだけでなく思いついたときに記入して頂くようにしています。頂いたご意見・苦情等は運営推進会議での議題として取り上げ改善できる仕組みを作っています。	家族の方々の遠慮されるお気持ちを理解し、少しでも本音を話して頂けるように努めている。面会時に暮らしぶりや健康状態を報告し、担当職員が季節ごとの衣類の不足分等をお伝えしている。今後も担当者会議の機会を増やすと共に、家族のご意見や要望を記録する専用ノートを作成予定である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々の仕事の中で職員の意見や提案を聞き、ミーティング等で議題として取り上げ、改善できる仕組みを作り上げている。身近な課題については申し送りの際に話し合っています。	管理者が“まとめ役”を担われている。職員の要望(勤務時間や休み希望等)を丁寧に確認し、働きやすい環境作りに努めている。ミーティングも毎月行い、職員の意見も増えている。チームワーク作りの検討も継続しており、職員個々の思いを聞き取ると共に、職員の良い所を見つけるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得等により給与水準の見直しや正職員への登用を行っている。資格取得については受験対策や資格取得に向けた勧奨を行っています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集・採用にあたっては性別・年齢・宗教等を理由に採用対象から外すことはない。個人の能力・希望を見極め、仕事の配分を行っています。	面接時は「やる気」や「価値観」「介護観」等と共に、「ファミリーに合う方かどうか」「ご利用者に対して“してさしあげる”等の姿勢があるか」等を大切にされている。職員個々の個性を大切にされており、適材適所で“できる仕事”をして頂けるように努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者が人権尊重の大切さを常日頃から職員に伝えるとともに、ミーティング時に統括マネージャーによる人権・倫理に関する研修を実施し、職員に啓蒙しています。	管理者は「今の状態がベストと考えるのは止めて、利用者の為に何が出来るかを常に考えてほしい」「自分の親を預けたいと思う施設づくりを目指してほしい」等を伝えている。ご利用者の想いを丁寧に確認するように努めているが、必要に応じて個別の指導が行われている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	テーマに合わせて本人の希望や能力を勘案した研修会の案内を行っている。参加希望者には研修日程に合わせた勤務形態をとっています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者主体で行政も参加する「地域密着ネットワーク」を平成21年度に創設し、情報交換・勉強会・相互訪問・研究発表等々、介護サービスの向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面接で本人・家族の意向を聞き取り、センター方式に基づくアセスメント用紙を活用してご本人の思いや不安・要望等の把握に努めている。意思疎通の困難な方の思いは日々の関わりの中で信頼関係を築いています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に担当者会議(参加者 ご本人、ご家族、管理者、ケアマネ、看護師、介護士)を開催、ご家族の要望等を聞き、ケアプランに活かして職員全員共有の中で支援できるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の担当者会議にて、ご本人・ご家族の要望を伺い、専門的見地から要望を検討することで、ご本人・ご家族に必要な支援をスタッフ間で共有して方針としています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、常に介護過剰にならないよう、利用者の出来る事を把握し、支援しながら実行して頂き、暮らしを共にする同志の関係を築いています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者・計画作成担当者は、ご家族の面会時にご利用者の近況報告を行うとともに介護スタッフはご利用者本人のエピソードや出来事などを細かく説明し、共に利用者本人の支えになれるようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通院の際に馴染みの人にお会いしてなつかしくお話をしておられましたので、ご家族にもその状況をお話しました。	地域の敬老会に参加する途中で、自宅周辺をドライブされている。馴染みの方(近所の方)の面会もあり、居室等で過ごされている。家族と自宅に帰られたり、馴染みの美容室や神社に行かれています。新しいアセスメントシートには、「馴染みの場所」を追記予定である。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎朝10時から全員揃ってのリハビリ体操・茶話会等を行い、利用者同士が関わる事が出来るようにしています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為、退所された利用者の入院先を訪ねています。時々ご家族にもお会いするのでその後の経過を聞いたり相談に乗ったりしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式に基づくアセスメント用紙を活用しご本人の意向の把握に努めています。意思疎通の困難な方には、ご家族に聞いた職員の仕事感を皆で共有しています。	ご利用者の生活歴や趣味等を伺い、センター方式や「個人経歴書」に記録しており、体調変化に応じて、ペンの色を変えている。ご本人の想いを傾聴し、ご本人の「行きたい場所」「心配な事」等を伺っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時カンファレンスで生活歴・馴染みの暮らし方等を知り、サービス利用時の経過については常にカンファレンスし、全職員で共有把握しています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートを活用し本人の心身状況を把握しています。介護士とケアマネジャーで現状の把握に努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者ごとに担当職員を決めて、アセスメントの原案を作成し、計画作成に活かしている。	ミーティング時にケア内容を情報交換し、計画作成担当者が計画を作成している。担当職員がアセスメントとモニタリングをしており、センター方式の記入を通して、観察力も深まり、意見も増えている。レクやリハビリも毎日行い、自立支援の視点も大切にされている。	23領域に基づいたアセスメントシートを新たに作られている。ADLの能力やIADLの「できること」「介助内容」「各活動の要望」「できそうなこと」を記録し、介護計画に活かすと共に、家族との担当者会議の機会を増やす予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく把握できるように、ユニット毎の記録からより細分化した記録方法に変更しました。その結果アセスメントも細分化でき介護計画の見直しに役立っています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の食材買い出し・物品の購入・野菜や花の購入の際にスーパー・大型量販店・ホームセンターまで一緒に出掛けています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館で開催される盆踊りや、夏祭りに参加をすることで地域の方と楽しむことが出来ました。認知症があっても普通の人と変わらない事の理解を得ることができています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	永年、協力医として、支えて頂いている。担当外の内容にも相談ができ、適切な処置や他の医療機関への紹介など良い関係を保っている。ご家族も納得され安心して受診、往診を任されている。	管理者や看護師が受診介助している。歯科医、皮膚科医の往診もあり、医師との情報交換も密に行われている。職員の観察力も高く、24時間体制でホームの看護師に相談でき、必要時は駆けつけて下さる。体調変化時は家族に連絡し、必要時は主治医から家族に説明して頂いている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切な受診や看護が受けられるように支援が来ています。看護師不在時は24時間体制で電話連絡が取れる様にしていますし、看護の申し送りノートにて日々の気づきを報告できるようにしています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の準備物及びその後の洗濯物等はすべて事業所の方で対応して、ご本人・ご家族は安心して治療に専念できるようにしています。面会時には主治医と情報交換にて早期退院できるように努めています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した時にどう対応するか管理者・看護職がご利用者ご家族と話し合っている。入居時施設で終末期を迎えたいと希望されてもその後の環境変化で入院を希望される家族もおられ、繰り返し話し合いをして意思の確認を行っています。	「ここで最期まで」と希望される方が多く、誠心誠意のケアが行われている。体調変化に応じて、医師から「治療や入院の必要性」の説明が行われ、適宜意向確認を続けている。足の浮腫に対して、医師から「足の挙上」等の指示を頂いている。今後も気になる症状を写真や動画に撮影し、医師に情報提供していく予定である。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生対応マニュアルに基づき全職員の教育を実施しています。又、応急手当については看護師より初期対応・発生時対応の訓練をおこなっています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難誘導の訓練については、火災のみならず地震、水害を想定している。建物の強度が十分にがあるので、外に飛び出さないように指導している。地域の方もある程度は避難先として使用できると考えています。	年2回(4月・10月)避難訓練している。重度の方は1階で生活されており、2階の方は「すべり台」で避難できる。災害に備えて食料や飲料水を確保しており、福祉避難場所として地域の方を受け入れる予定である。土砂災害時のマニュアルも作られている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	倫理規定に基づき研修をおこなっており「こころの抑制」をしないようにミーティングや申し送りを通じ話し合っている。特に介護途中の声掛けは優しい口調をするように全職員には伝達しています。	ご利用者の目線で声かけし、残存能力を引き出すように努めている。ご利用者に背を向けて職員間の話し合いをしないようにしたり、部屋番号で申し送りを行うなど、プライバシーの配慮に努めている。入浴、排泄時には露出を少なくし、同性介助をする方もおられる。	ご利用者との会話の中で語尾や語調が強くなる時がみられるとのこと。今後も職員個々が自分の言動に気づき、ご利用者の人格を尊重した声かけができるように努めていく予定である。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で常に希望を確認しています。リハビリやレクリエーションの時間に問いかけを増やし、希望や思いは出来る限り早く実現できるようにしている。散歩、買い物等。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活スタイルを大切にしています。ご入居者同士で会話をされる方、TVをみられる方、読書をされる方等、個別の支援を行っています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	4月に実施した「おしゃれの日」は大好評で久しぶりのお化粧品に女性軍は酔いしれていました。散髪は2か月に1回福祉理美容サービスより出張にておこなっています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員と一緒に楽しく食事が出来る様に揃った段階でスタートするようにしている。食事の進み具合をみながら利用者個々の嗜好を見つけ出している。	「カレーの日」を作り、ご利用者と調理している。もやしの根取りや白玉作り、誕生日のケーキと一緒に作られたり、畑の野菜作りも楽しまれている。食事介助が必要な方も増え、嚥下状態を丁寧に観察されている。今後も食事の「安全」「安楽」と共に、「楽しい食事」となるように努めていく予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の生活歴や残食の状況から好みものを把握し献立を考えている。ご入居者の状態に合わせて食事量や嚥下咀嚼力に合わせた食事形態にしています。食事水分量のチェックにより医療との連携も実施しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月、歯科医師にご指導を仰ぎ、利用者個々の口腔状態を話し合いながら、ご入居者に合わせた口腔ケアを実施している。入れ歯を使用している方は定期的に入れ歯除菌を行っています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日のリハビリの時間に下肢筋力向上の訓練を取り入れたり、昼間のトイレ排泄を誘導する事で、夜間もポータブルトイレ使用やトイレでの排泄に切り替える支援を行っています。	布の下着を使用する方もおられる。立位が難しい方も2人介助でトイレにお連れする方もおられ、夜間も「安眠優先にするべきか」等を医師に相談している。バイタルや排泄チェック等を一覧にしており、適宜、事前誘導している。新しいアセスメントシートでは「尿意・便意」「ケア内容」等を詳しく記入予定である。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者にあつた形態の水分を十分に補給して頂くようにしています。食事やおやつに食物繊維を多く含む食材の利用に心がけています。便秘が続く時は主治医と相談しています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	週3回の入浴の外、汚染時等は必要に応じて入浴する体制にしています。時間は現在は決まった時間になっていますが、ご入居者の希望時間を聞いたうえでローテーションの変更等を考慮するようにしています。	入浴の意向を確認している。入浴を拒まれる時は時間をずらし、無理強いしないようにしている。「温泉の日」として入浴剤を週2回以上楽しまれたり、職員との会話を楽しませている。自立支援を大切に、できる所は洗って頂いており、体調に応じて2人介助をされている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間は定めてなく、夕食後はTVを見られる方や読書をされる方など、それぞれご自分のペースで自由に過ごされるように支援しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職が一人ひとりの薬の管理をすると共に、「内服薬チェック表」で飲み忘れのないようにしています。症状変化やコントロール薬についても主治医と連携で服薬支援をしています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午後のレクリエーションの時間を利用して庭の野菜収穫に出たり、散歩や天気の良い日は中庭でお茶会している、又、物品購入の際、量販店に同行して頂いています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭の散歩はいつでも散歩できるようにしています。また、花の綺麗な正助ふるさと村にお連れしてゆっくりとした気分を味わって頂いています。	上西郷川公園のコスモスまつり、宗像大社の菊花展、吉田ガーデンの見学など、季節の花見を楽しまれている。石森萬盛堂、あんずの里でマラソン見学と共に、平井区の敬老会でグローバルアリーナにお連れしている。スーパーやホームセンターに食材や野菜、花の購入に出かけており、今後も畑の野菜を増やし、野菜の収穫の機会を増やす予定である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に、おやつ等を購入したりしています。菊花展で宗像大社に行った際にお賽銭をあげたり、おみくじを購入して頂きました。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者に家族宛の年賀状等を作成して頂き、投函しています。希望されれば電話を掛けていただき会話を楽しんで頂いています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの演出をリビングの壁を利用して入居者と職員の共同で行っている。桜・こいのぼり・アジサイの花等々、季節ごとの塗り絵を楽しんで頂き掲示しています。	宗像市の「花いっぱい運動」に協賛して、花壇やプランターに花を植えている。玄関やリビングには季節の飾り(お雛様など)や作品、行事の写真、アルバムと共に、ご利用者の素敵な所を記入し、掲示している。両ユニット合同で、1階で体操やレク等をされている。定期的に換気を行い、消臭対策も続けている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室内で一人の空間を楽しまれたり、食堂やホールで語り合ったりする場所・時間を提供しています。		

56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の時にご家族の方へはご相談しているので居室内にはなじみの物が入っています。ご本人の意向で徐々に増えていっています。	担当職員が飾りつけや整理整頓をされている。掃除担当の職員も配置しており、今後も居室の掃除回数を増やす予定である。ベッドは備え付けで、畳を敷いて布団で休まれる方もおられる。家族の写真や遺影、仏壇を置かれたり、眠る前にラジオで歌(童謡、歌謡曲など)を聴かれる方もおられる。	
----	------	---	--	--	--

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂、トイレは大きく案内表示しており、自立に向けた環境にしています。食事時間の表示や入浴日等、日課表を居室に掲示して自立に向けた行動が出来る様にしています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				